

カトリック六甲教会 教会報

2015

5

No.521

「3つの命」の象徴をいただいた聖週間のミサ

典礼部

聖木曜日、聖金曜日、復活徹夜祭のミサについて、今年度はアルフレド神父様が枝の主日の10時のミサ終了後、11時半から15時過ぎまでリハーサルを行われました。ミサ中で様々な所作が行われる難しい聖週間の祭壇奉仕について子どもたちに細かく指導されました。また、このリハーサルには先唱者、朗読者、オルガン奏者、独唱者なども加わり、お互いの関連性、タイミングについても確認が行われました。

教会の宝ものでもある子どもたちが、与えられた役割を果たす姿を見てミサにあずかった多くの人から良かったという感想を聞きました。こうして3日間のミサは粛々と進められ、参加された方々に新たな感動と希望を与えたと思います。

聖週間の典礼は、「聖週間の典礼（会衆用）」にも書かれているように、キリストの受難からご復活までの出来事をできるだけ忠実に記念しようとする典礼で4世紀末のエルサレムで盛大に行われ、その後、各地に伝えられていきました。聖木曜日のミサでは最後にご聖体は小聖堂に安置され、祭壇のものはすべて取り除かれます。キリストの受難と死が始まったことのしるしです。ミサ後も信者は小聖堂でお祈りを捧げます。復活徹夜祭では今年は「光の祭儀」でろうそくが聖堂前ロビーの入口で一人一人に点火されました。ミサにあずかった人は聖歌が歌われる中を聖堂に入り、ろうそくを持って自席に向かいました。何人かの人からそのシーンに感激したという声をききました。アルフレド神父様の説教にありましたように私たちはそのミサの中で「光」「水」「ご聖体」という3つの命の象徴をいただきました。この機にもっと聖週間のミサの持つ意味を深く心に刻んでいきたいと思いました。



ナルドの花たより

キリストは復活されました！私たちと共に生き、歩んでおられます！

Christ is risen! Christ is alive and journeys with us! (2015. 4. 5)

イエスは使徒たちの足を洗いました。私たちも同様に、周りの人々にいつでも奉仕できるでしょうか？

Jesus washes the feet of the Apostles. Are we ready to serve others like this?

(2015. 4. 2)

キリストの十字架は敗北ではありません。十字架とは、愛といつくしみなのです。

The Cross of Christ is not a defeat: the Cross is love and mercy. (2015. 4. 3)

私たちキリスト者は、自分の「壁」を乗り越え、神のいつくしみと愛を全ての人に伝えるよう、呼ばれています。

We Christians are called to go out of ourselves to bring the mercy and tenderness of God to all. (2015. 4. 25)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より



聖週間を終え、それぞれの行事の皆さまから感想、思いを届けていただきました。

洗足式の感想

去年の洗足式は会衆席からぼんやりと見ていました。今年も他人事のように何も考えずにいたところ、なんと被洗者として参列して下さいのお達しで、びっくりしてしまいました。そして聖木曜日の当日、実際に体験してみると想像以上に感動してしまいました。思わず泣きそうになりましたが、子供たちのいる手前、それは我慢いたしました。アルフレド神父様はじめ世話役の皆さま、貴重な経験をありがとうございました。

(ヨセフ)



幼少から大学までカトリック系に学び、イエス様を身近に感じて育ちました。両親・主人も旧中山手カトリック教会、六甲教会と関わる中で洗礼を受けたい気持ちをオマリー神父様にお伝え致しました。鶴甲家庭集会の皆様と現在に至り、形式ではなく御心なのだといつも話して下さいます代母から洗足式の意を教わり、当日を迎え緊張で足が凍りついてしまい、アルフレド神父様の手が触れた瞬間、涙が出ました。流した涙を忘れないでいます。有難うございました。

(アンナ マリア)

ぼくは、せん足しきをうける前は、神父さまに足をあらってもらうのははじめてだから、きんちようしたし、ちょっとしんばいでした。

そして、せん足しき中は、イエスさまは本当にやさしい人なんだなあと思いました。なぜなら、まだ8才のぼくの足を、大人の神父さまがあらって下さったので、ぼくも、どんな人にも、足をあらってあげるような気もちで、いられる人になりたいです。

(悧太)

おゆが足にかけられた時はあったかいと思った。水だと思っていたらおゆだったからびっくりした。アルさんにあらってもらってうれしかった。

(風太)

聖木曜日に洗足式に出させていただきます。足にかかるお湯の温かさを感じた時、神様の愛に包まれゆるしの秘跡を受けたような気持ちになり、心が震えました。

このような機会を与えていただき、洗礼の恵みを改めて感じる事が出来ましたことを感謝しております。そして少しでも神様の御心に近づけるように日々を過ごしてゆきたいと思っています。

(美津子)

去年の洗礼式から一年。たどたどしい歩みですが、信じるものになろうと思いつつ過ごしてま

いりました。信者一年生として洗足式に参加させて頂き、神父様が注がれるお湯の感触と共に大切な教えがしみ込んでくるように思えました。謙虚に、そして愛し合いなさいと言う教えにならう暮らしを目指すよう努めるつもりで居ります。
(モニカ)

受洗者の感想

一昨年の11月10日、初めて六甲教会に入りました。実をいえば一週間前、なんとなく敷居が高く感じて帰ってしまったのです。

自分自身の問題、両親は病気に、さらに親族の不幸。本当に嫌になってしまい、でも、ふと教会の門をたたきました。自分が強くなる、支えを求めて教会にきました。時の流れはあっという間でしたが、あの頃よりは少し強く、他人への接し方にも変化があるように思います。

これからもいろいろなことがあると思います。でも、信仰を支えに、自分に強く、近くの一人から幸せにする。そう生きて行きたいと思います。沢山の祝福をありがとうございます。

(ニコラウス)

亡くなった母の希望でもあった洗礼を、コリンズ神父様のもとで受けさせていただくことができ、この上ない幸せと感じています。神父様から額に十字架の印をいただいたときには、深い慰めと安堵が得られました。皆さまのご指導を賜り、教会の一員として務めてまいりたいと思います。よろしくお願いたします。
(ベルナデッタ)



六甲教会の門をくぐったのは、今23才になる長女が小学校一年で教会学校にお世話になった時でした。それから早や17年。本日の受洗の日を迎えるまで、随分時が経ってしまいました。いつかほと思ひながら、昨年、真剣に考えるようになりました。時を同じくして、昨年から今年の春までに次々困難な問題が起こり、現在もその中でもがいている最中ですが、教会の神父様並びに皆様のお支えにより、この日を迎えることができました。これも神様の思し召しだと思ひ、これからはひとりで苦しんでいるのではないと考へ、この困難を受け入れていこうと考へております。

これからも教会の皆様方のお導き、そしてお支えをお願いすることになりますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
(マルグリット)

改宗式の感想

この度、4月5日 イースターという特別な日に改宗式を行いました。神父様をはじめ、色々ご準備して下さいました方々にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

当日は、いつも以上にたくさんの、お御堂から溢れんばかりのたくさんの方々を前に、「緊張」という言葉以外、何もありませんでした。主人と1歳の息子も来る予定でしたが、あいにく息子が熱を出してしまい、2人はお留守番。少々、心細い気持ちもありましたが、代母を快くお引き受け下さった義母、私の緊張をほぐそうと温かい言葉をかけて下さった義父に見守られ、安心した気持ちで臨むことができました。ありがとうございました。

改宗するにあたり、「なぜ改宗するの？」や「改宗するのに抵抗はないの？」といった質問をよくされました。元々、実母は仏教徒でしたが、父との結婚を機に洗礼を受けたと聞いていましたので、自然と「結婚すれば、主人と同じ宗教を信仰するもの」という価値観が出来上がっていたから、抵抗がなかったのだと思います。

まだまだ知識不足で、勉強を重ねていかなければと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ致します。



(マリア・グラツィア)

私はプロテスタントの両親のもとで生まれ、プロテスタントの教会に通い、主人の転勤先の静岡の教会で洗礼を受けました。

3年前出産直前に神戸に引っ越してきて教会を探していました。いくつかプロテスタントの教会に行ってみましたが何故かしっくり来ず、最後に思い切って行ってみたのがカトリック六甲教会でした。初めて参加したミサの感動が忘れられず、イエス様の臨在を実感し、出産後しばらくしてから毎週六甲教会のミサに行くようになっていました。

講座にも参加させていただき、教会のみなさんとの交わりの中でカトリックの仲間に入りたいという憧れがどんどん強くなっていきました。

改宗、堅信式をしていただき、この教会の仲間に入れていただけたことを本当に幸せに思います。これからどうぞよろしくお願いします。(ジェンマ)

初聖体・祝福式

4月に入り雨天続きの毎日でしたが、12日は子どもたちを祝福するかのように好天の下で、初聖体・祝福式の日を迎えることができました。特に今年は2人の子ども達が洗礼を受けると同時に初聖体という二重の大きな喜びとなりました。



ミサの中でアルフレド神父さまはミサにあずかることの大切さをおっしゃっていましたが、子どもたちにとって今日の喜びと感動が毎週ミサにあずかりご聖体をいただく喜びへとつながっていかれることを願ってやみません。

また当日は子どもたちもいろんな方に「おめでとう！」と言っていただきとても嬉しかったようです。子どもたちをお祝いして下さった全ての方々に心より感謝し、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。下記はこどもたちと保護者の方々の感想です。どうぞお読みください。

2年生クラス担当リーダー 吉村

子どもたちの感想

ロウソクをくばられた時、きんちょうしていて、手あせがあったので、ロウソクをおとしそうになりました。

パンのあじは、とてつもなく、あじがありませんでした。イエスさまが体の中に入ってきてくれてうれしかったです。(行至)

今日初聖体をうけて、一番心にのこったことは、しけんがうかったことです。あと、みんなそろってしけんがうかったので、うれしかったです。

初聖体をうけた後には、しっかりしようと思いました。そして、家にかえった時には、おいのりもしてみました。(悌太)

ご聖体はどんな味がするのだろうかと思っていただけ、食べたら味がしなかった。またミサにきたら味がかわるかな。これがイエスさまの体なのかーと思った。(風太)

かぞくがみんなできてくれてうれしかったです。

イエスさまがこころにきてくれたからうれしかった。

神父さまとよし村リーダー、ありがとうございました。ほかのリーダーもたくさんきてくれて、よかったです。(龍史)

わたしは、4月12日にはつせいたいをうけました。ずっとまっていたはつせいたいの日、ベー

ルと花かんむりをつけたとき、お友だちに「きれいだね！」と言ってもらえたのでうれしかったです。ミサがはじまる前はとてもきんちょうしていましたが、ミサがはじまってごせたいをいただいてから、心がおちつきました。二年生のころから早くごせたいをたべたいと思っていたので、いただいたときは、おいしいと思ってとてもうれしかったし、イエスさまがわたしの体の中において下さると思うと、あん心しました。



おわった後は、いろんな人たちから「おめでとう」と言ってもらえました。はつせい体のあとは、パーティーがあり、わたしはお友だちと二人でごあいさつをしました。上手にごあいさつができるか心配でしたが、しっかりできたと思います。

パーティーのために、お母さまたちがお食事をたくさんよういしてくれていて、とてもたのしい思い出になるはつせいたいでした。みんなにありがとうとかんしゃの気持ちでいっぱいです。

(ミナ)



わたしはしゅくふくをうけられて、うれしかったです。

さいしょはきんちょうしてたけど、はじまるとだんだんきんちょうがとけて、こんどはどきどきわくわくしてきました。きょうどうきがんを言うときには、れんしゅうしているときよりも、元気よく言えたと思います。そして、さいごのロウソクに火をつけてもらうときにちゃんとつくかしんばいしていたけど、きれいに火がついてうれしかったです。

パーティーのときは、リーダーからプレゼントをもらったり、歌を歌ったりごはんを食べたりしてたのしかったです。

(咲希)

保護者の感想

神様の導きのもと、初聖体を迎えることができました。神父様、リーダー、準備して下さった方、お祝いして下さった大勢の方々、ありがとうございます。洗礼式も一緒に行われ、たくさんの祝福の日となりました。ミサの中で、アルフレド神父様がおっしゃった、家庭での信仰のあり方についてのお話にグサリ・・・ねる前にジュニア聖書を一緒に読むところから。

これからも信仰の道を歩んでいきますように。

(鳥野)

本日は初聖体・祝福式・洗礼のお祝いをありがとうございました。

2年生になってからの一年間は特に、教会学校でお勉強させていただきました。そのおかげか自ら洗礼を受けたいと言いだし、今日のこの日を迎える事ができました。本当に周りの皆様のお力添えと神様のお導きのおかげと感謝しています

今日、早速「寝る前のお祈りをしたよ」と報告がありました。今日この日をむかえられた事に感謝しつつ、新しい人として神様の御手に守られ、光に導かれて、豊かに歩んでいけますように。

感謝の気持ちを込めて。ありがとうございました。

(齋藤)

まずは自分が神様の子どもであることに気づいて欲しい、そしていつか洗礼をうけられたらもっと良いというぐらいの気持ちで教会学校やミサに連れてきていましたが、リーダーとアルフレド神父様のおすすめにより、初聖体・祝福式の日洗礼を授けていただくという大きなお恵みにあずかることができました。風太が6人のお友達と一緒に祭壇の前に並んでいるのを見て、思わず涙が出ました。

本人はご聖体を食べてみたいというのが、洗礼を受ける動機だったようです。これからしっかり

勉強していけば最初はそれでも良いから、と励ましていただきましたが、受洗した今は親として信仰を伝えていくという責任も感じます。

神様の愛を受けて信仰を育んでいくことができますよう、信徒のみなさまのお祈りをお願いいたします。多大な時間と労力を払って初聖体・祝福式、パーティーの準備をしてくださった神父様、リーダーのみなさま、そして保護者のみなさまに改めて感謝申し上げます。 (中西)

一年前は、この日を迎えることができるとは想像していなかったもので、とても嬉しく感謝しています。ここまでこられたのも神父様はじめ、リーダー方のお力がとても大きかったです。

集団になじむのが苦手で教会に連れてくるのもやっと・・・という感じで久しぶりに来た教会では“静かに！”とおこられるので、教会大きらいといつも言っていましたので。神父様のミサの中のおことばどおり、やはり信仰教育は家庭が第一、本当に家で親の姿勢をまず正すべきとしみじみ反省しています。

式のみ사는、いとこたちが駆けつけてくれ、思い出深いものになりました。赤ちゃんの時、いつも龍史をだっこしてミサにあずかってくれたおじいちゃん（今は天国）の大好きだった歌「ガリラヤの風かおる丘で」が流れ、おじいちゃんの歌声もきこえ、胸がいっぱいになりました。

いつもはゴソゴソしているミサ中ですが、一番前列で神父様を目の前にして、また仲間たちと共に奉仕しながら授かったミサの体験は、子どもにとって大きな一歩だったと思います。これからもこのお恵みを大切に、この絆を大切に、そして次のステップへ踏みだせる様に・・・子どもと共に祈り続けたいと思います。 (松田)

晴天に恵まれた4月12日に、娘は初聖体を授かることができました。

初聖体までの一年間、娘はお友達と一緒に神さまについてお勉強し、様々なことを学び、「初聖体まであと何日かな・・・」と待ち望んでおりましたので、この日は娘と私達家族にとって、とても大切な日でした。

白衣に十字架、白いベールと花冠をつけた娘の姿を見て、幼児洗礼を授けて頂いてから6年、大きく成長しましたことに、今まで支えて下さいました方々へ感謝の気持ちでいっぱいでした。ミサでお友達と一緒に座っている娘の表情は、少し緊張しているように見えてましたが、神様の体を頂き、初聖体を終えた後は、本日の晴天のように清々しく、満足感あふれる幸せいっぱいの表情で、素敵な笑顔を見せてくれました。

ミサの後は、保護者の方々から素晴らしいパーティーを開いて頂き、会場で娘はお友達と一緒にご挨拶をして、リーダーからのインタビューにも答えており、また少し成長したように感じました。

帰宅してから娘は「これから日曜日はミサでご聖体を頂きたい」と言っておりましたので、私も娘と一緒に信仰を深め、祈り続けていきたいと思います。

神父様、教会、リーダー、保護者の方々とお導きに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。 (メツガー)



この度は、素敵な祝福式に与る事が出来、神父様をはじめ、リーダー方や準備をして下さったお母様、お父様方、携わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。

信者でない私たちも一年かけて少しずつお勉強して、ロウソクを作ったり、ロザリオを作ったり、お花飾りを作ったり、この日を楽しみにして参りました。

この祝福式で感じた神聖な気持ちを忘れずに、日々の生活を送って行けたらと思っております。本日は、本当にありがとうございます。 (西村)

教会学校錬成会（3月21～22日）

3月21日～22日、教会学校では春の錬成会として、仁豊野の「淳心の家」に行ってきました。テーマ「ジャンプ」（努力、友情、夢）です。

昼のプログラムでは大きな広場で班対抗での遊びを通して、楽しみながら友情やがんばることに触れてもらいました。また、夜のプログラムでは自分の将来の夢や好きな事が葉っぱになる自分だけの木を画用紙に書いてもらい夢についても少し考えてもらいました。

今回の錬成会は子供たちにこれから大切にいてほしい三つのことを伝え、そしてみんながとても楽しそうで笑顔で溢れた錬成会となりよかったです。

以下子どもたちの感想です。お読みください。

ジャンプのテーマで、はっぱにやってみたいことやしょうらいのゆめ、好きなことをかきました。わたしのゆめじゃ水えいせんしゅです。もっとがんばらないとゆめがかなわないことがわかりました。いつもはプールにいきたくないといってるけど、いかないと早くならないしきれいに
およげないとおもいました。

だるまさんころんだをしたとき、はれないようにテニスボールをはこんで1ばんだったからうれしかったです。
(新小2年 千里)



私は、れんせい会が、えふリーダーや教会学校のお友たちとの1番の思い出となりました。私は1年生から教会学校に通っているけれど、れんせい会に行くのは初めてでした。

まず、電車にのりました。そしてバスに乗り30分たち「じゅん心の家」につきました。

今回のテーマは「ジャンプ」でした。それは「友じょう」「努力」「ゆめ」でした。

プログラムの1つ目は、班のみんなと力を合わせるゲームでした。このゲームで勝つと、夜ごはんのカレーとハヤシライスルーやぐ材を1番に選べるのです。野菜やお豆、お肉、ルー、きのこ、デザートがあり、それぞれゲームしました。とっても楽しかったし、班のみんなとの友じょうもふかまりました。

その他のプログラムでは「ゆめ」についてのことでした。1人1枚、画用紙が配られました。そこに木の枝やみきをかき、その葉っぱに切った紙をはって、その中に自分がしてみたいこと、好きなことを書くというプログラムです。こうして書いていると、自分には、こんなゆめがあるんだなと思いました。

2日目、朝起きたら、朝ごはんを食べました。リーダーが作っていたのを見て、感謝することができました。そして、ごミサがありました。私は司会をしました。でも、初めてだったので、まちがえてしまいました。でも、ごミサが終わってから、リーダーが、上手だったよ、と言ってくれたので、よかったです。

そして、お昼ごはんは、さいごのプログラムでした。お昼ごはんは、リーダーが作ってくれた、おにぎりとかからあげでした。とってもおいしかったです。そして、その後のそうじも、心をこめてできました。

自由時間では、みんなと楽しく遊べたので、よかったです。またれんせい会に行きたいです。

(新小5 優莉花)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

ご復活のお祝いとコリンズ神父様の送別会（4月5日）

4月5日10時の御ミサの後、イグナチオホールでご復活のお祝いとお世話になったコリンズ神父様の送別会が行われました。進行は地区会代表の川合さんでした。

はじめにアルフレド神父様からご復活のお祝いと六甲教会で前夜に受洗された方と改宗された方、また神戸中央教会で受洗して六甲へ来られる方の紹介があり、拍手でお祝いをいたしました。続いて評議会前議長からコリンズ神父様への感謝の言葉、三日月会からのお礼の品と寄せ書きの贈呈があり、コリンズ神父様からのご挨拶を頂きました。



評議会新議長・堤さんによる乾杯の後、懇親・歓談となり、コリンズ神父様のところへ次から次へと皆様、別れを惜しまれたのでした。教会学校の子供たちの元気な歌声のあと、花束贈呈そして大きな拍手に送られてコリンズ神父様が退場され、高山神父様のお祈りでお開きになりました。

終了は13時ちょうど。参加者は約200名でホールは溢れての集まりとなりました。準備とお手伝いいただいた地区会役員始めとする皆様に感謝したいと思います。（飯塚）

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

<行事報告>

祈りと音楽の集い（4月19日）

この度4月19日(日)の「喜びと希望—祈りと音楽の集い」は、イタリアを拠点に活躍されている、吉田愛さん、アレックス・ガイさんという素晴らしいオルガニストのお二人をお招きして開催されました。お二人はヨーロッパ各地の国際フェスティバルや日本のコンサートホールなどで、度々連弾による演奏をされていらっしゃる御夫婦で、今回もお二人の連弾を中心としたバラエティーに富んだプログラムを演奏してくださいました。第1部ではバッハやモーツァルトといったドイツの作曲家の作品、第2部ではお二人のホームグラウンドであるイタリアの作曲家による明るく楽しい音楽が聖堂の空間一杯に響き渡っていました。

普段の御ミサのオルガンではあまり聞かれないイタリアの青空を思わせる晴れやかな音色を存分に活かした音楽で、聴衆の方から「まるで遊園地にいるみたい」という感想が聞かれたほど、「喜びと希望」に満ち溢れた時間でした。連弾のコンサートということもあり、音量も密度の高いもので、このオルガンでこれだけの音楽が作れるのだと新鮮な驚きも感じました。お二人の息もぴったりで、それが音楽にますます生気を与え、お二人がずっと笑顔で時折お互いの顔を見合っているのも、その音楽ともども、私たちをととても幸せな気持ちで満たしてくださいました。主のご復活を喜び祝うこの時期に行われたコンサートとして、これほど相応しい音楽はなかったと思います。演奏してくださいました吉田愛さんとアレックス・ガイさんに、心からの感謝を捧げたいと思います。また、いつかお二人がイタリアの明るい青空と風を六甲教会に運んで来てくださることを楽しみにしております！（松井）



★社会活動部より★

5月6日(水)10時 手芸の集い(第1、2会議室) どなたでも参加ご自由です。

5月9日(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

5月17日(日)10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール)

5月21日(木)14時 ベタニアの集い

5月22日(金)9時30分 ともしびケーキ作り(イグナチオホールお台所)

社会活動部学習会

社会活動部では、年に一度の学習会を以下の日時で予定しております。

大変貴重なお話を伺えるまたとない機会ですので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

学習会 5月17日(日) 14時~ イグナチオホール

テーマ “今 できること”

講師：林尚志神父 (下関労働教育センター所長)



“愛と正義と平和な世界”への光・道・いのちでありたいとの志しで、20数年前から、イエズス会下関労働教育センター長として、一般市民と共に人間愛と人権を尊重するための様々な活動を続けておられる林神父様に、体験と経験の中からイエスは私たちに何を伝えたいのか・・・を、聖書に照らし合わせながらお話していただきます。多数ご参加ください。

★典礼部より★

♪聖歌隊便り♪

復活、聖霊降臨と大きな祝祭日が続きます。

聖週間では、枝の行列、十字架の称賛、光の祭儀と、典礼の動きに合わせた聖歌が歌われました。この日しか歌われない特別な聖歌もありましたが、会衆と一体になって祈りを捧げられたことを嬉しく思っております。

5月はマリア月です。また聖霊降臨祭もあります。

聖歌隊と共に、ミサで使われる聖歌や典礼歴にそった聖歌を歌いませんか？

どなたでも、お気軽に練習にご参加ください。

【5月の練習】

ミサ前： 3日、10日、17日、24日、31日 いずれも日曜日9時より9時半まで

定期練習： 9日(土)10時から12時 17日(日)11時15分から12時半

場所：主聖堂



混声合唱団からのお知らせ



混声合唱団は、現在 40 名弱の部員がいます。小学唱歌や日本民謡、世界民謡など広く歌い、近隣の老人施設の慰問もしています。

歌を通じてお互いのコミュニケーションが図れ、健康にもいいですよ。みんなで楽しく歌いましょう！特に若い男性の参加をお待ちしています。

詳しくは、蛭田武、藤井恵津子までお問い合わせください。



★★★ これからの練習日 ★★★

- ・ 5月 10日(日)13:00～14:30(第 1, 2 会議室)
- ・ 6月 14日(日)12:30～14:00(第 1, 2 会議室)
- ・ 6月 28日(日)12:30～14:00(第 1, 2 会議室)
- ・ 7月 12日(日)12:30～14:00(第 1, 2 会議室)
- ・ 7月 26日(日)12:30～14:00(第 1, 2 会議室)
- ・ 8月 9日(日)11:30～13:00 (ホール)
- ・ 8月 30日(日)11:15～12:45(ホール)



《 図書室からのお知らせ 》 2015 年 04 月に入った図書から

☆ 世界で一番たいせつなあなたへ —— 文:片柳弘史 絵:RIE PHP 研究所 出版

あなたは、愛されて生まれてきた大切な人。 マザー・テレサ

マザー・テレサの短く核心を射た言葉、ヤギーこと片柳神父様のわかりやすい体験に依るエッセー、そして世界中に笑顔を広げるアーティスト RIE さんの優しく何よりも温かい挿絵に美しく飾られた本です。手に取って見た方が、座右に置くために購入するきっかけとなれば、図書の係りとして嬉しい限りです。贈り物とすることで逆にプレゼントされる気持ちが味わえます。

(Fr. 片柳より寄贈)

☆ 聖書を味わう —— 高橋重幸 オリエンズ宗教研究所

神の呼びかけに気づき、喜びに満たされるために——祈りの中で培われた聖書の読み方を紹介。イエスを通して聖書を読むとき、わたしたちの罪ですらも光り輝くものとなり、一切は賛美の源となります。聖書の共同研究と分かち合いは…復活された主イエスを中心に、聖書のこの喜ばしいメッセージを生きることだと言えるでしょう（4章より）。

『聖書 新共同訳』や典礼で使われる『詩編』の翻訳にも携わった厳律シトー会（トラピスト）司祭が、長年の観想生活をもとに聖書の読み方を紹介します。人と神とのかかわりを探るなかで神の呼びかけに気づき、喜びに満たされるようにと読者を招きます。

図書室改造計画について

六甲教会の図書室に、子供たちのスペースをという主任司祭からの提案をもとに図書室の改造をと考えております。土曜日の教会学校の始業前など、教会の子



